

崩壊熱評価ワーキンググループ議事録

開催日時： 平成2年3月12日 13:30 ~ 17:00 (原研東海研究所)
出席者： 中嶋(法大), 瑞慶覧(日立), 吉田(東芝), 田坂, 片倉(原研)
配布資料： a. 感度係数に基づく誤差評価計算結果(飯島委員)
b. 崩壊熱推奨値データブックと添付フロッピー内容案(飯島委員)
c. 「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会幹事会報告(飯島委員)
d. 崩壊熱推奨値データブック原稿一部分(中嶋委員)

議事：

I. 報告事項

(1) 原子力学会崩壊熱基準委員会の報告書supplementに添付するパソコンコードをFORTRANに変換し終わった旨, 瑞慶覧委員より報告があった。

II. 討議事項：

(1) 崩壊熱計算の誤差評価に就いて

・資料a.に基づき, 長い冷却時間で効く核種(特にPr-144)の誤差を再評価する必要があるとの問題提起が行われた。これを受け, La-140, Cs-137, I-134, Mo-99, Pr-144につき, 放出エネルギーの誤差をどれくらいにするべきか, 詳細かつ具体的な議論があった。

(2) 「原子炉崩壊熱基準」委員会報告書supplementについて

この件に関連し資料b, cに基づき議論が行われ, 以下の様に決定された。

・次回の「原子炉崩壊熱基準」委員会(3月26日)までにU-235 丈でも, 誤差データをまとめ, 報告する。

・ γ 線スペクトルはdecade毎(tc=1, 10, 100, 1000...sec)に3年照射のデータを表にして示す。

・FPのcapture 効果はBWR, PWR, FBR の3システム, β , γ , total に対し, no captureとの比を表で与え, 内そうして使う。

・次回「基準」委員会(3月26日)までに, 崩壊熱計算サンプル問題を見直す(BWRデータとfission fractionの追加, 燃焼経歴の見直し)。

・報告書supplementに添付するパソコンコードに就いて議論があり, 瑞慶覧委員の上記FORTRAN プログラムをベースとするが, 機能別のコードを一つに統合する方がよいとの議論があり, 瑞慶覧委員が引続きこの作業を担当することとなった。

・資料d.に基づきsupplementの構成につき具体的に議論された。特に崩壊熱の値とその誤差を一つの表に纏めるか, 別々の表にするか議論され, 決定は次回「基準」委員会に待つこととなった。